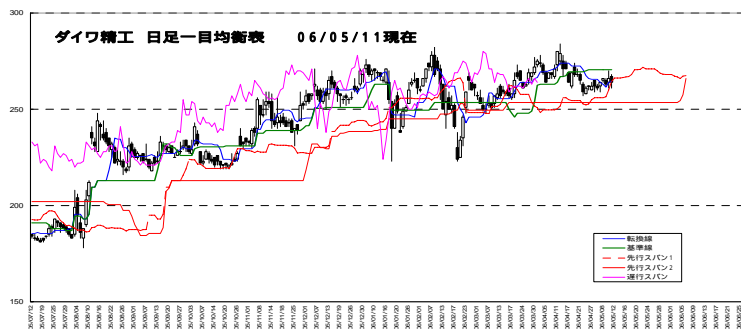


## 参考銘柄2

## ダイワ精工 (7990 東証一部)



## 【釣具世界トップ】

5/11 株価 264 円(1000 株)

PER(実) 19.8 倍

PBR(実) 4.55 倍

ROE(実) ----%

発行済株式数 133,174,723 株

配当利回り(実) -----%

年初来高低 223 284 円

売買高 10 日移動平均 4796000 株

## ポイント1 リストラから攻めの経営へ

ダイワ精工は、バブル時代の後遺症から大掛かりなリストラを推進し、その成果が出始め次第に攻めの経営に転じてきている。2008年3月期までの新中期経営計画では、2006年3月期に当期純利益の黒字化、2008年3月期に連結売上高540億円・経常利益30億円・当期純利益25億円を達成し、当期純利益で過去最高を更新目標としている。財務でも2008年3月期末までに連結有利子負債200億円以下、2007年3月決算期からの復配といった課題を設定しているが、現実味を帯び始めている。

同社は釣り具では世界シェア第一位(主力の国内市場でもトップで23%)。カーボンロッドの技術をいかし、シャフト作りなど定評がある。日本初のグラファイトシャフトはダイワ精工によって開発されたもの。中核事業の釣り具用品では、リール、ロッド、クーラー、ウェア、釣り糸、ルアー、釣り餌、タックルボックス、その他の製造・販売、および修理をてがける。このほか、スポーツ用品のラインナップでは、ゴルフ用品、テニス用品、マウンテンバイク、アウトドアカジュアルウェア、などがあ

## ポイント2 事業区分

事業は大きく三つに分けられる。

## (1)フィッシング事業

主力事業で、今後は国内市場におけるシェア・アップと市場活性化、さらに海外市場における積極的な拡販が課題。国内では釣種別マーケティング体制による企画・開発・マーケティング力の強化継続に加え、ブランド・マネジメント、デザイン力の強化、需要予測精度の向上によりシェア拡大を企図。新釣法の提案や画期的な新機能搭載の新製品、釣ソフト事業の推進により市場活性化をはかる。海外は、本社仲介から直質体制への移行による海外販社の自立を目指す。機動的マーケティング体制と効率的サプライチェーンを確立し、特に北米及び東アジアにおける積極成長を考えている。製造部門は、中国生産を拡大。

## (2)ゴルフ事業

オノフ・ブランドを中心とした展開。ブランド・コンセプトは順調に支持を広げる。高反発規制等の制度改正によるニーズを捉え、着実な成長を図る。

## (3)スポーツ事業

プリンス・ブランドのテニス用品及びスペシャライズド・ブランドのサイクルスポーツ用品の販売。プリンス契約プロのシャラポア選手の活躍等で、ラケット販売が伸びている。

この資料はファーストメイク・リミテッドが会員のみ発行するものです。当資料に記載されている数字・意見等は、当社がその正確性を保証するものではありません。また、投資に関する最終判断はご自身で行われますよう、お願い申し上げます。加えて、当資料の著作権はファーストメイク・リミテッドに帰属し、いかなる方法によっても、全部もしくは一部を無断で複製・転用・配布・転送することを禁じます。

## ダイワ精工 (7990 東証一部)

### ポイント3 米国での拡販攻勢

5月10日の日経産業新聞によると、ダイワ精工は米国における釣り具の販売拡大に乗り出すと報じられている。6月中旬に、東海岸のノースカロライナ州シャーロットに営業拠点を新設予定。現在は、西海岸カリフォルニア州セリトスに販売子会社を保有している。しかし、釣り人口が集中するのは東部地域ということで、この一帯での営業体制は従来手薄であったことで販売網が強化され、同社は2006年度の米国の釣り具売上高を前年度比2-3割増に引き上げた。従来同社の米国における販売は大手小売ウォルマートやその他専門店を通じており、今回の東部進出でスポーツ用品店への営業攻勢をかける意図があるようだ。釣りは地域性の強い趣味であるため、拠点には重点人員配置を行い、営業のみならず、顧客サービスや研究開発の担当も常駐させる模様。ニーズの地域特性を十分に汲み取ろうとする方針のようだ。生産部門でも従来のOEMによる調達を中心だったが、9月からはベトナムの新工場と、中国の2工場から納入する体制にシフトするとされている。これにより低価格での競争力強化を図るようだ。米国では同社のシェアまだまだ1割に低迷しており、競合のシマノ(2割シェア)に対して攻勢をかけることになる。

こうした米国での実績拡大が期待される一方、国内では団塊世代の消費関連株として注目されている一面もある。同世代が「やってみよう」というスポーツランキングでも、常に上位に入ってくる分野であり、そのほかのゴルフ、スキーなどと比べても、一回当たりの消費額が格段に安い。この点は、米国のベビーブーマー世代の今後の長期的な消費性向の調査とも一致するところで、日米の世代サイクル級の需要増大というシナリオからは、低迷している業績に大きく貢献する可能性がありそうだ。

### ポイント4 業績急回復がすすむ

株価はゴールデンウィーク前に2月の高値284円に一度面合わせをした後、現在の260円台のもみ合いに入っている。いったんこの間、4月24日に257円まで下げている。昨年3月以降、120-140円でのレンジトレーディングから、直近の260円台までの大相場を演じたが、これは明らかにどん底からの復活を体現したものであった。今年に入ってから260円台をはさんでの揉み合いが長い。一貫して13週、26週移動平均線前後で調整のボトムをつけた上昇トレンドは変わらず。目下集計中の2005年3月期決算は5月22日に発表予定だが、急回復の見込みとなっている模様。四季報ベースでは、赤字だが13円台に劇的に改善の期待があるようだ。今期も増収増益は続く見通しで、かねてからの課題であった復配も射程内に入っている。従って機関投資家による地道な仕込みが水面下では行われているという指摘も市場にはあるようだ。仕手性の強い株価の特性もあり、期待は大きい。当面は1999年の338円という高値が目標となるが、目先はまず300円台の確保をねらいたい。

業績(百万円・前期比%)

	売上高		経常利益		純利益		EPS(円)
2005/3(実)	47794	-2.9	2120	44.8	-2918	-	-26.7
2006/3(予)	52800	10.5	2780	31.1	1740	-	13.1
2007/3(予)	55000	4.2	3000	7.9	1850	6.3	13.9

(四季報より)

この資料はファーストメイク・リミテッドが会員のみ発行するものです。当資料に記載されている数字・意見等は、当社がその正確性を保証するものではありません。また、投資に関する最終判断はご自身で行われますよう、お願い申し上げます。加えて、当資料の著作権はファーストメイク・リミテッドに帰属し、いかなる方法によっても、全部もしくは一部を無断で複製・転用・配布・転送することを禁じます。

FIRST  
MAKE  
LIMITED

ファーストメイク・リミテッド

東京都千代田区岩本町2-8-9 林慶ビル7階

TEL:03-5821-7781 FAX:03-5821-5600